

用語集

(職務分析表などに頻出する主だった用語の読み方と意味を記す。)

	用語	読み	意味
1	IE	あいいー	industrial engineering 生産工学、経営工学、産業工学、管理工学のこと。
2	アスファルトルーフィング張り	あすふあるとるーふいんぐばり	アスファルト防水に使うフェルト状の紙で、表面に雲母の細粉などを付着した材料を貼ること。
3	アンカーボルト	あんかーぼると	土台と基礎をつなぎ、双方が分離または移動することを防ぐためのボルトのこと。
4	安全書類	あんぜんしょるい	元請に提出する労働安全衛生法・建設業法関係の書類（労働安全衛生法関係書類、労働者名簿、施工体制台帳、施工体制図、再下請負通知書）の総称。
5	板図	いたず	施工に関わる詳細な仕様が書かれている。昔は手板と言っていた。
6	腕木庇	うでぎひさし	柱に腕木を取り付け、腕木の先端に出し桁をのせて、垂木をかけ渡し、裏板に金属板を葺いたもの。
7	横架材	おうかざい	梁・桁・胴差し・土台などを水平方向に架ける構造材。
8	大引き	おおびき	木造の1階床組みの根太を受ける10cm程の角材で、90cm程の間隔に渡して束で支える。
9	落し掛け	おとしかけ	床の間の上部正面に取り付ける横材のこと。 鴨居・長押回りより少し上に取り付けられる。
10	矩図棒	かなばかりぼう	建築物の高さ関係の情報を書き込む定規。2本作製する。
11	かまち組	かまちぐみ	建具の上がまち、下がまち、縦がまち及び横木を組み合わせた枠の中に、板（鏡板）などをはめ込んだ構造のこと。
12	框材	かまちざい	床に段差がある場合など、上部の床縁に取り付ける横材をいう。玄関の上り框、縁側の縁框などがある。
13	鴨居	かもい	引き違い戸や引き戸を立て込むための部材で、建具の上部に取り付けられる横材。
14	仮筋交い	かりすじかい	建て方時や工事中に建築物の傾斜を防ぎ、垂直を保持するように仮設する筋交い。
15	側げた	がわげた	木造階段の部材で、段板や蹴込み板を両側から支える桁材のこと。側折を用いてつくられる階段を側折階段という。
16	木表・木裏	きおもて・きうら	板目の板で、樹皮に近い方の面を木表といい、樹心に近い方の面を木裏という。
17	木ずり下地	きずりしたじ	スギ材などの小幅の板を目透かしの打ち付けた塗り壁下地。
18	基礎パッキン（飼木、ねこ）	きそぱっきん（かいぎ、ねこ）	住宅の床下の換気・通気を行うために、土台と基礎の間に敷く通気部材のこと。
19	木づくり	きづくり	木材を建築の納まりや用途に応じた形状に加工すること。

	用語	読み	意味
20	木取り	きどり	製材した木材から柱・板などを取るの分割すること。原木の丸太から角材や板材を製材する前に、無駄が無いように所定の形状に分割する場合は製材木取りと言う。
21	木拾い	きびろい	図面から木工事に必要な木材数量を、種類・寸法別に拾い出す作業で、木寄せ・木だしとも言う。
22	気密防水テープ	きみつぼうすいてーぷ	断熱ボード、透湿防水シート、サッシ回りなどの継ぎ目の気密防水性を高めるために用いる粘着テープ。
23	QC	きゅーしー	Quality Control 品質管理
24	共通仕様書 (建築工事標準仕様書)	きょうつうしゅうしよ (けんちくこうじひょうじゅんしゅうしよ)	工事に対する設計者の指示のうち、図面では表すことのできない点を文章や数値などで表現するもので、品質、成分、性能、精度、製造や施工の方法、部品や材料のメーカー、施工業者などを指定するもの。 ※ 共通仕様書と特記仕様書がある。共通仕様書はどの工事にも適用される仕様書のことで、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事標準仕様書」が使用される場合が多い。特記仕様書は個別の工事に対する仕様書を指す。
25	原価管理	げんかかんり	現場担当者が費目を予想して現場を改善し、原価を予算内に納めること。
26	現寸図	げんすんず	仕上がりと同寸法で描いた図面。建具工事・金属工事・管工事の細部の納まり図や鉄骨の製作図など。現状を優先するので原寸図ではなく現寸図を用いる。
27	剛床	ごうしょう	建築物の床のうち、風荷重や地震荷重などの水平荷重に対し大きな剛性と耐力を持ち、水平方向に変形しにくい床のこと。
28	工程計画	こうていけいかく	工事が予定の工期内で終わるように、工事の順序、速度などに関して立てられる計画のこと。
29	小屋筋交い (小屋筋違い)	こやすじかい (こやすじかい)	小屋組を補強するため、桁行方向に入れる筋交いで、棟木下の小屋束をつなぐもの。
30	作業手順書	さぎょうてじゅんしよ	実際の工事状況に合わせたマニュアル 作業を安全に効率よく確実に行うための流れと方法をまとめたもの。
31	作業標準書	さぎょうひょうじゅんしよ	工事の一般的なマニュアル 作業するうえで守らなければならないルールやコツをまとめたもの。
32	曲尺	さしがね	大工が寸法を取るL字形の物差しで、表のきざみ寸法と裏の $\sqrt{2}$ 倍のきざみ寸法を使い分けて直角を出す。指金、指しかね、差し矩とも言う。
33	地板	じいた	床の間・床脇の床板で、畳面と同じ高さのもの。 地袋板・敷込み板ともいう。
34	敷居	しきい	引き違い戸や引き戸を立て込むための部材で、建具の下部に取り付けられる横材。
35	仕口	しぐち	2つ以上の部材を角度を持たせて接合する、その接合部のこと。
36	資材管理	しざいかんり	工事に使用する資材の計画、購買(調達)、保管、消費を合理的に遂行するために行う管理活動のこと。
37	尺杖	しゃくづえ	3cm角・長さ1~2間の木材に、高さに関する目盛りを墨で印した物差しで、現場で大工が作る。間竿(けんざお)とも言う。

	用語	読み	意味
38	JAS	じゃす、 じえいえーえす	日本農林規格 コンクリート型枠用合板等の類別や等級等の規格
39	JASS11	じゃすじゅういち	JASSは日本建築学会工事標準仕様書（Japanese Architectural Standard Specification）で、各種建築材料および施工基準の仕様を定めている。JASS11は木造建築工事についての建築工事標準仕様書・同解説である。
40	充填工法	じゅうてんこうほう	木造住宅の断熱工法の内、グラスウールなどの断熱材を壁体内に挿入する充填断熱工法。
41	筋交い	すじかい	地震や風などの外力に対する建物の軸組み強化に入れる斜め材で、木造では圧縮材として柱の2つ割りを使う。
42	隅木	すみき（すみぎ）	寄せ棟や入母屋の小屋組で45度方向に出て屋根を支える棟木にあたる部材。
43	墨出し（親墨、子墨、心墨、心出し、通り心、基準墨、返り墨）	すみだし（おやすみ、こすみ、しんずみ、しんだし、とおりしん、きじゅんすみ、かえりすみ）	墨出し作業の元となる墨を親墨（元墨）といい、階別の各階にのみ適用される基準墨のこと。 子墨は基準墨を元に割り出す墨のこと。 心墨は部材の中心線を示す墨で、真墨（まづみ）ともいう。 心出しは壁や柱などの中心線を出すこと。 通り心とは最下階を基準にして、建物の縦軸線と横軸線の基準となる中心線のこと。 基準墨は軸線の基準となる墨で、通り心として表示されたもの。 返り墨（逃げ墨、レベル逃げ糸）心墨が判らない、あるいは、障害物で見えない場合に対応するため、基準墨から一定の寸法を離して平行に引いた墨のこと。
44	背・腹	せ・はら	傾斜地に育った樹木は斜面の谷側で凸形に反った面を「背」といい、山側で凹形になる面を「腹」という。「背」の方が年輪の幅が狭く、年輪の密度が高い。「腹」は年輪の幅が広い。平地でも日当たりにより年輪密度が異なるため、「背」と「腹」が現れる。
45	施工計画	せこうけいかく	工事の全体工程や施工条件を反映して工事予定を考えること。
46	施工詳細図	せこうしょうさいず	施工計画図に基づき、施工の詳細を図面化したもの。
47	施工図	せこうず	設計図書に基づいて施工段階で作成されるもので、施工管理（ゼネコンが行う）と施工（専門工業者が行う）のために作成される図面。
48	施工要領書	せこうようりょうしょ	工種別の工事概要、仕様、材料、作業管理、安全管理、施工手順等の指示内容を示すもの。
49	設計図書	せつけいとしょ	建築工事の図面（意匠図、構造図、設備図）及び仕様書 意匠図：建物の平面図、立面図、断面図など意匠図面の総称。 構造図：建物の梁、柱など構造に関する図面 設備図：給水、排水、給湯、ガス、電気（弱電含む）、空調などの設備関係の配管、配線やその仕様などを記載した図面 仕様書は「24 共通仕様書」を参照のこと。
50	接合金物	せつごうかなもの	構造体の仕口・継手の補強や仕上材と下地との接合・取り付けなどに使用する金物で、規格適合のマークがあるものを使用する。
51	外張り工法	そとばりこうほう	木造住宅の断熱工法のうち、柱や壁などの構造材の外側を断熱材でくるむ外張り断熱工法。
52	耐力壁	たいりよくへき	構造体の壁で、鉛直と水平荷重を負担する。間仕切り壁とは区別する。耐震壁は地震力に抵抗する耐力壁である。

	用語	読み	意味
53	たたみ寄せ	たたみよせ	壁と畳の境に使われる縁木。柱と柱の内側に納め、隙間を埋める役目をする。
54	建入れ直し	たていれなおし	柱を建てたり、建具を取り付けたりするときの垂直方向の調整をすること。
55	建て方	たてかた	構造部の組立作業
56	建具枠	たてぐわく	開口部に設けられた窓、ドア、戸などの可動部分を支える枠材の総称。
57	谷木	たにき	2つ屋根面が下がって交わるところが谷で、谷を受けるための小屋組の部材。
58	玉掛け	たまがけ	重量物をクレーンなどで揚重・移動する際に重心を失わないようワイヤーロープなどをかけること。玉掛け作業者は労働安全衛生法で定められた資格が必要。
59	垂木	たるき	木造建築の屋根で下地板の支えに横から母屋・軒桁の上に斜めに架け渡す部材。
60	段板	だんいた	木造階段の踏み板
61	継手	つぎて	2つ以上の部材を長手方向に接合する、その接合部のこと。
62	つり木	つりき	天井を上から吊る部材のこと。つり木の上端は梁またはつり木受けに、下端は野縁に取り付ける。
63	出来高	できだか	工事の物理的に出来た部分。すなわち出来形部分の請負代金相当額
64	出来高査定	できだかさてい	工事出来高に従って工事中間の支払い、または取り下げ金額を計算すること。
65	手工具	てこうぐ	かんな、のみ、玄能、のぎぎりなど、手作業に使用する工具
66	電動工具	でんどうこうぐ	電動丸のこ・電動かんな・電動溝切りなど、多種多様な持ち運び可能な電動工具がある。安全作業に心がけることが肝要である。
67	峠・峠量	とうげ・とうげりょう	軒板などの中心墨（断面）が屋根勾配線（垂木の下端線）と合致した点。
68	透湿防水シート	とうしつぼうすいしーと	主に木造建築物の外壁の屋外側に用いられ、外からの雨水の侵入を防ぐとともに、壁体内の湿気を屋外に出す性質を持つ。
69	胴縁	どうぶち	壁の下地材で、板状の仕上げ材などを取り付けるための横棧または縦棧をいう。
70	通し柱	とおしばしら	木造2階建ての上階と下階を1本物で通した柱で、隅部に用いる。上階と下階を別々に継ぐ管柱より堅固な構造。
71	床框	とこかまち	床の間の床板が畳面より一段上がる場合の畳面との見切りに使われる化粧部材のこと。
72	長押	なげし	柱を横方向につなぐように壁に取り付ける見付け化粧材の総称。鴨居または付け鴨居の上にとりつけるものを特に「内法なげし」という。
73	貫	ぬき	木造真壁造りで柱を貫いて横に渡して壁下地の骨組みにしたもの。

	用語	読み	意味
74	根がらみ貫	ねがらみぬき	床束同士の根元を連結し固めるために床束に取り付ける横木のこと。
75	根太掛け	ねだかけ	大引きと平行に設置され、根太の端部を支えるための床組部材であり、主に壁際に設置される。
76	根太レス床	ねだれすゆか	根太を設けず床下地合板を厚くして、直接梁材に留め付ける床組み工法で造られた床。
77	ネットワーク工程表	ねっとわーくこうていひょう	丸印と矢線の結びつきで工程を示したもの。各作業の順序や因果関係を明確に把握できる。
78	軒天野縁	のきてんのぶち	軒裏の部分の天井板を取り付けるための下地材。
79	野地板（合板）	のじいた（ごうばん）	屋根の瓦葺きやスレート葺きの下地として垂木の上に張る板のこと。
80	野縁	のぶち	天井板を取り付けるための下地材で、「天井野縁」ともいう。
81	バーチャート工程表	ばーちゃーとこうていひょう	各作業の所要日数を示したもの。 ※ 工期に影響する作業がどれであるかよく分かる。
82	鼻隠し	はなかくし	軒先において垂木の端部などを隠す横板のこと。
83	巾木	はばき	室内壁が床板と接する最下部に取り付ける横板で、壁下部の床板との見切り材。壁下部を損傷から保護する役目を持つ。幅木とも書く。
84	破風板	はふいた	屋根の妻側で、垂木の側面や母屋の木口を隠すための部材。
85	番付け	ばんづけ	木造建築を新築や解体移築の際に各部材の仕口や継手部分に墨書きする符牒か、大工が部材の組立に便利のように板に書く平面図で、縦・横それぞれの方向に符号を割り付ける。
86	ひかり方	ひかりかた	光板を用いて墨付け作業をする方法。 光板とは小屋梁丸太を軒に架け渡す場合、大入りとなる小屋梁の加工部の形を移すために使われる板。
87	火打ち土台 火打ち梁	ひうちどだい ひうちばり	火打ち材は土台、梁や桁など水平材が直行する部分を補強する構造部材のこと。1階の床の土台面の部材を火打ち土台という。2階などの床や小屋組に設けるものを火打ち梁という。
88	ひな留め	ひなどめ	長押と床柱の取り合い部分などの出隅の留め仕口の一つ。
89	広小舞	ひろこまい	軒先に沿って垂木の先端に取り付ける部材で野地板最下端の納まりに使用する横板。
90	品質管理	ひんしつかんり	施工要領書・発注書で要求されている精度を確保すること。 ※ 型枠工事自体が、工事が完了すると撤去されてしまう仮設工事であるため、品質としては施工精度を確保することが目標となる。
91	品質管理計画書	ひんしつかんりけいかくしょ	仕様書等に規定のある品質管理基準や社内自主基準等を満たすことを確認する計画書。 ※ 品質の管理方法や検査方法、基準などが定められる。
92	VE	ぶいいー	Value Engineering 提出金額と品質の再評価（同じ品質を保ちながら工法・材料など変更・原価低減提案）すること。
93	踏板	ふみいた	木造階段の段板

	用語	読み	意味
94	フラッシュパネル (ベニヤ)	ふらっしゅばねる (べにあ)	サンドイッチ構造の一種で周囲および芯に幅の狭い板を使い、両面に合板を接着した中空構造板のこと。
95	プレカット工法	ぷれかっとうほう	プレカットされた住宅木材を現場で組み立てる工法。
96	防水紙	ぼうすいし	木造建築物の外壁の屋外側に用いられ、外からの雨水の侵入を防ぐアルファルトフェルトなどのシートのこと。
97	ホールダウン金物	ほーるだうんかなもの	木質構造における金物の一つ。建物が水平力を受けた場合、柱の引抜き力に抵抗するために基礎などと柱を緊結する目的で使用する。
98	まぐさ	まぐさ	出入口や窓などの開口部上部に取り付ける水平材で、建具枠を支持する。漢字では楣もしくは目草と書くが、読みにくいためひらがなで表記される。
99	間柱	まばしら	壁の下地材を取り付けるための補助柱。大壁造では、柱の二つ割りから三つ割り程度のものを柱間に立てる。
100	回り縁	まわりぶち	壁と天井が接する部分に使われる見切り縁のこと。「天井回り縁」ともいう。
101	面材壁	めんざいかべ	構造用面材を使用した耐力壁のこと。
102	木材調書	もくざいちょうしよ	木材調達・木材特記仕様書の略で、木拾い書とも言われる。木材を発注するためと納入された木材を検査するために、設計特記仕様書を元に施工者が作成し、木材提供者に渡す。木材の生産地・樹種・寸法・数量などを記載する。(材料発注と施工を一括して請負う場合)
103	木工機械	もっこうきかい	丸のこ盤・帯のこ盤、手押しかな盤など、据え置きする多種多様な電動木工機械がある。安全作業に心がけることが肝要である。
104	役物柱	やくものばしら	通常の柱の形状に対して特殊な形状の柱のこと。
105	床束	ゆかづか	東立て床の床組束材で、東石の上に立てて大引きを支える垂直材のこと。
106	予算書	よさんしよ	工事を行うための原価や適正利益などの概算費用を計算したもの ※ 施工した数量(通常、型枠を打ち上げた状態で60%、解体片付け後100%)を計上する。
107	淀	よど	瓦葺の屋根において、軒先瓦の安定をはかるため、広小舞の上に取り付ける水平材。
108	陸庇	ろくひさし	屋根勾配が緩く、軒裏に軒天井を張って仕上げた庇のこと。

※大工工事業で一般的に使用している用語と意味を記述した。建設大辞典(第2版)(彰国社)、図解建築・大工用語辞典(井上書院)、図解建築施工用語集[改訂版](井上書院)、図解建築現場用語辞典(ナツメ社)などの文献やインターネット上の用語集(建築用語net、住宅建築専門用語辞典など)を参考に、団体・企業へのヒアリングを通して知り得た用語の言い回しや意味を取りまとめた。参考文献(73頁)を参照されたい。